



# 立沢里山 里山新聞 第3号

平成18年8月20日

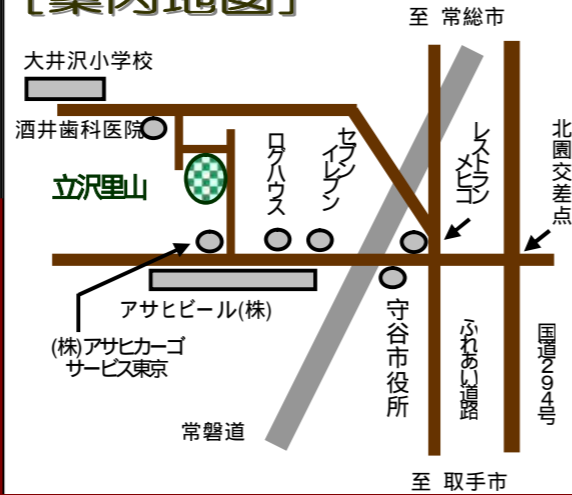
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮  
問い合わせ先：事務担当  
須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）  
立沢里山ホームページ  
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

ボランティア募集  
あなたも一緒に楽しもう！

## ～目次～

- 1 「田んぼの学校」企画コンテスト入賞！
- 2 園芸種植栽、タコノアシ傷害事件
- 3 注意看板の設置
- 4 里山とは何か？考えて見ましょう
- 5 草刈、維持管理作業
- 6 ホタル出現、メダカの大群
- 7 北守谷夏祭りに出店

## 【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします  
[san-seino@hb.tp1.jp](mailto:san-seino@hb.tp1.jp) 清野

## 田んぼの学校旗



## 2 園芸種植栽、タコノアシ傷害事件

里山祭りの実施によって、「立沢里山」が地域の人たちに広く知られるようになったためか、最近では散歩や野遊びなどで訪れる人が増えてきたようです。

ところが問題も発生してきました。田植え後の草刈作業の中で、水路周辺に園芸種の花が大量に植栽されていることに気がつきました。水路の中のメダカに混じって移入種のヒメダカをみかけました。

また、希少種である小川の中の「タコノアシ」や木道奥の「ガマの群落」などが何者かによってなぎ倒されているという事態が発生しました。

花の植栽はおそらく悪意はなく、子供たちがたくさん遊んでいるので周辺を花で飾って快適な環境を作ってあげたいという善意の行為とは思いますが、里山の会としては今回の事件をきっかけに、原点にかえり、改めて里山の趣旨やあり方について考える必要があると思いました。

「里山とは何か」については次頁を参照ください。

## 「立沢里山の会」からのお願い

立沢里山は人工的、都市的な公園とは違い、地域に昔からある環境や原風景を保全再生し、「野で遊ぶ！野に学ぶ！野を食す！」として、あるがままの自然を体験し楽しむ場です。従って、以下の点に注意願います。

注1

外来種の動植物はもちろん、地域にもととなかった園芸植物やペット、鑑賞用の魚・虫などの放置・持ち込みはご遠慮願います。

注2

むやみに植物や動物を傷つけることはしないでください。

注3

自然にはハチ、毒蛇、池の深みなど危険なこともいっぱいあります。まず、自分でよく考え注意して遊びましょう。

注4

小さな子供は一人では遊ばないこと。危ないことをしていた場合はお互いに注意し、声をかけ助け合しましょう。

ご協力をお願いいたします。立沢里山の会



## 3 注意看板の設置

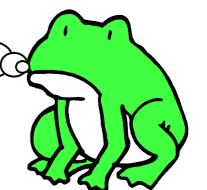
作業終了後に会員で意見交換し、注意看板を設置してはどうかということになりました。

とりあえず、手作りですが左記のような内容で、入り口と小川の合流地点の二箇所に設置してみました。

また掲示板の中にも貼りました。



わかってケロなのだ！！



## 1 「田んぼの学校」企画コンテスト入賞！

今春、第8回の「田んぼの学校」企画コンテストに応募していましたが、6月上旬に連絡があり、「立沢里山」が「企画部門」に入賞選考されました。

「田んぼの学校」企画コンテストとは農村環境整備センターが主催するもので、田んぼやため池、里山などを遊びや学びの場として活用する取り組みを全国的に支援し活性化することを目的とし、「企画部門」「ステップアップ部門」「連携プロジェクト部門」の3部門があります。

今年は全国から91件の応募があり、特に「企画部門」は62件と最も応募件数が多いので、その中から選ばれた13件の一つに入りました。

当初は「ステップアップ部門」での応募も検討しましたが、「立沢里山の会」として今年初めて一般市民向けに取り組むこととした「里山祭り」をメイン企画としてアピールしようということで「企画部門」に応募したものです。

選定地区には支援金や賞状、「田んぼの学校旗」が送られます。今後、活動報告書の提出や報告会への出席などにより、全国的に紹介されたり、交流する機会がでてくると思われます。

なお、農村環境整備センターは農林水産省の所管する社団法人で、そこに「田んぼの学校支援センター」があり、コンテストのほか、関係する情報や資料提供、指導者紹介、研修などにより全国の活動をサポートするところです。



## 4 里山とは何か？ 考えてみましょう

### 1 里山とは

ミュージアム「茨城県自然博物館のパンフレット「里山自然発見」には「里山とは手つかずの自然ではなく、人々が生活のために手を加えることで維持されてきた雑木林や谷津田を中心とした自然環境で、そこには多種多様な動物や植物が生活しています。

里山はかつて薪や炭、肥料などを供給する場として人々に利用され、ごく当たり前に見られた日本人の原風景でした。」と記載されています。

### 2 移入種の問題

里山は、長い年月をかけて形成された独特の生態系を有しており、日本の原風景ともいえるものです。そのため外部から移入種を持ち込むことは生態系や景観を急激に破壊するなど大きな問題となります。



外来種が入ってくると、天敵がいがないために急激に増殖して在来種を追い出したり、食べてしまう（捕食）などにより絶滅に追い込むことがあります。時には病原菌の持込により周辺の農林業にも被害を与えるなど様々な影響があるのです。したがって、ほとんどが外来種もしくは品種改良された園芸植物の植栽、ペットの亀、インコなどの持込や放置、ブルーギルなど外来魚の放流は全国的に問題となっているところであり、里山としても注意が必要です。

また、最近ではメダカやホタルなどを養殖して放流する事例があるようですが、同一種でも生息する地域固有の特徴を持っており遺伝子形質が異なっているものがたくさんあります。他の水系などへ広域に移動させることは在来種と交配する遺伝子汚染という深刻な事態となります。メダカやホタルは、かつてそこに生息していたのであれば、住みやすい環境を再生してやれば無理に養殖して放流しなくても自然に増えるものです。

### 3 里山の豊かな自然

全く人の手が入らない原始の自然は特別な訓練を受けた人でもなければ景観はともかく触れ合う場としては厳しすぎる存在ですが、里山は人間と動植物の共同作業により形成されてきたため、特に人間にとっては安全で親しみやすく、安らぎや快適な自然を提供する場と考えられてきたのです。

では人の手の入った里山に豊かな自然、貴重な自然としての価値が本当にあるのでしょうか。

昔の日本列島は広大な湿原や木漏れ日のさす落葉樹林におおわれ多様な動植物が生息していました。縄文時代以降、その多くが人間の手によって開発され消滅したり、常緑樹林に遷移し、太古からの生物は生息場所を失う危機に直面しましたが、新たに出現した水田を湿原の代わりに、里山を落葉樹林の代わりとし、そこで今日まで生きながらえることができたのです。

そのため水田や里山は、日本列島独自の生態系を保持する日本的な固有種の宝庫でもあるのです。

### 4 里山の保全

かつて里山は木材、燃料、肥料、食料、薬草を供給するなど人間の生存に欠かせない存在でしたが、現代では輸入材、化石燃料、化学薬品などに取って代わられたために、里山の生産的価値が低下して人の手が入らなくなりました。里山が放置されると生態系が大きく変化して今まで生息していた動植物は住み続けることができなくなり、中にはゴミ捨て場にされるなど荒れ果ててしまいました。

近年、里山の役割が生産の場だけでなく、「環境保全」、「美しい景観」、「文化の伝承」、「教育」などの場として重要性が見直されてきています。遊び、教育、資源など利用目的は様々ですが、「立沢里山」のように里山を再生保全し、有効に活用しようとする取り組みが全国的に活発になってきています。

市民、行政、地権者などが協力して、身近な自然を守り親しむ場として、皆で楽しく取り組むことが大切です。（S野・記）

### 5 草刈、維持管理作業

里山祭りで田植えも終わり、6月の定例作業は草抜き、草刈作業です。稲もひと月でかなり分結して立派な緑の絨毯模様になってきました。

水田の一角に「マコモ」や「古代米（黒米）」も植栽しました。

作業をしていると結構多くの人たちが散歩に訪れているようで、中には高齢者の方もいることに気がつきました。

考えてみると腰掛ける場所もないことから、木道補修のついでに小川の合流地点にデッキを作成してベンチとテーブルを配置し、休憩できるようにしました。



### 6 ホタル出現、メダカの大群

7月はホタルの季節です。昨年は残念ながら前年に比べてかなり減少してしまったようです。昨年は雨が少なく、会員みんなが熱心に草刈をし、里山の管理に頑張りすぎたせいで排水がよくなり、湿原の水位が下がってしまったのが原因かもしれません。

そこで今年は、水路の途中に何箇所か杭を打って堰き上げをし、人工的に洪水浸水エリアを作ってみました。

そんな中で今年はどうなるか注目していましたが、ホタル出現のメールをもらったので早速夕方8時頃、観察に出かけました。

最初は木道の奥のほうに数匹平家ホタルを見かけたので、とりあえず生息は続いているほっとしました。ところがよく見るとあちこちの草むらの奥深くで光っており、因果関係はまだわかりませんが、少なくとも昨年よりはかなり増えていると確認できました。

車や道路のライトが問題だという意見もありましたが、街頭の照明を交換してもらったことあるのか結構手前の道路周辺でも見かけました。

また、特筆すべきはメダカが増加です。今年は比較的雨が多く、一部ですが不耕起栽培を導入したせいか、池、水路、田んぼの中などいたるところでメダカの大群を観察することができました。少しずつですが、生き物の生息環境が改善しつつあると実感しました。引き続き頑張りましょう。

### 6 北守谷夏祭りに出店

北守谷夏祭りの出店は「立沢里山の会」の恒例行事です。

元来は里山の会の活動資金稼ぎとしてスタートしましたが、会員はむしろ夏祭りそのものを楽しみにしています。いつの間にか出店では老舗の仲間に入ってきてい



ますが、これまた恒例の焼きそばも「里山の会」の伝統伎になってきました。道具も本格的な特注製作品を揃え、焼きそばの段取りや調理の腕前も皆プロ並みと自負しています。

しかし、毎年盛況とは言いながら、今年の仕入れた焼きそばは約1400食、見事に完売しましたが、かなりの体力がいる作業でした。その分、裏舞台でのカンビールも実においしいものでした。

